

With You

ウィズユー

さいたま

3 March 2017

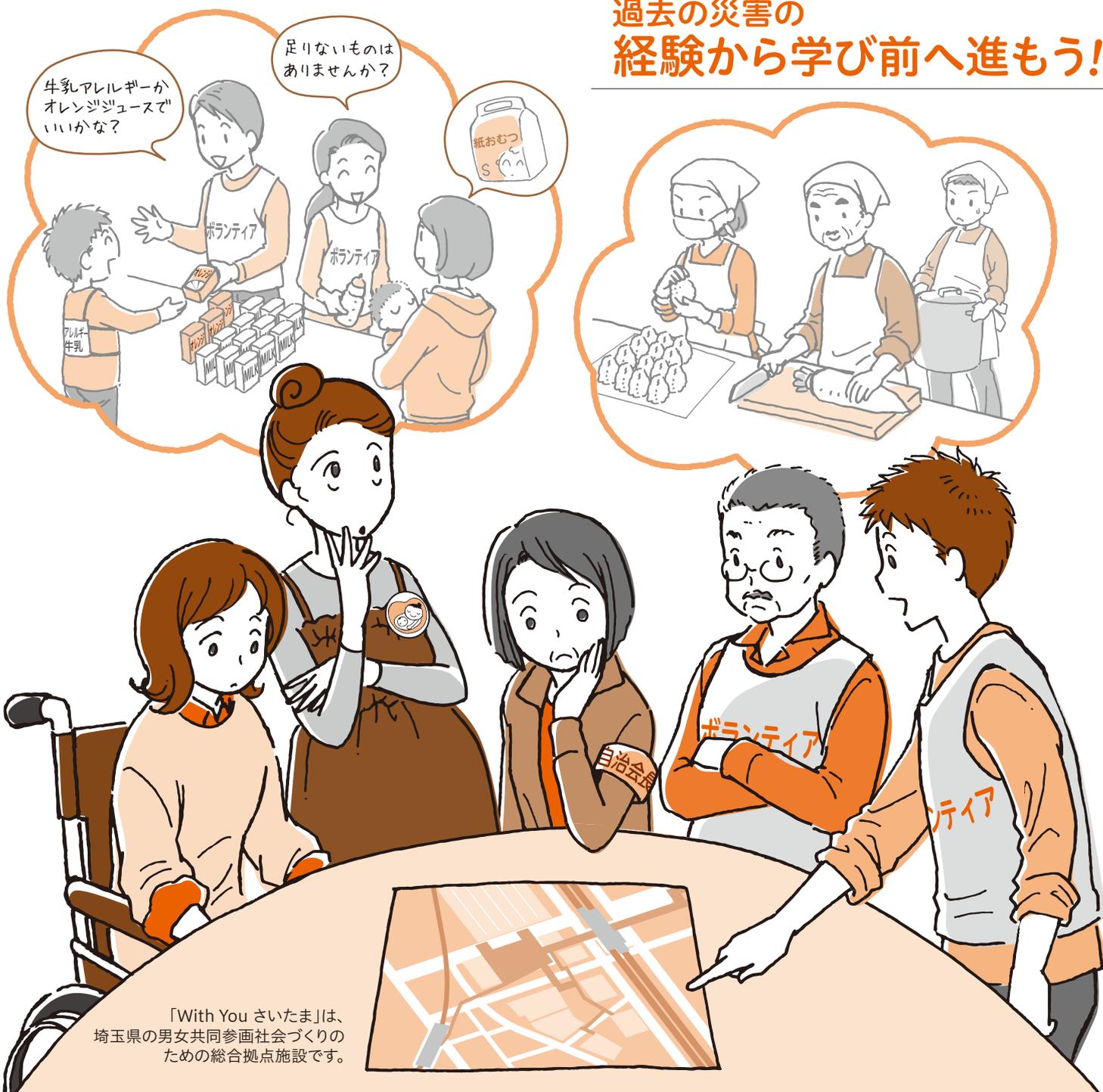
特集
P.2~4

防災と女性

過去の災害の
経験から学び前へ進もう!

CONTENTS

- P.4 防災と女性について考える本
- P.4 災害時は、性暴力も発生しやすくなります
- P.5 第15回 With You さいたまフェスティバル 安田菜津紀さん講演会より
- P.5 しごと準備講座 ~体験から学ぶこれからの「わたし」の働き方~
- P.6 第12回さいたま輝き荻野吟子賞受賞者決定!
- P.6 男女共同参画週間イベントのお知らせ
- P.6 With You さいたま イベントカレンダー



「With You さいたま」は、
埼玉県の男女共同参画社会づくりの
ための総合拠点施設です。

防災と女性

～過去の災害の経験から学び、前へ進もう！



東日本大震災から6年、熊本地震からも4月で1年が経とうとしています。

これまでの大災害での経験から、

防災・災害復興分野における男女共同参画の視点の重要性が指摘されています。

近年、自然災害が多発しており、私たちの周辺でも災害が起きるかもしれません。

非常時の備えは日常から。次に来るかもしれない災害に備え、

過去の災害の経験と教訓に学び、今、私たちにできることを考えてみましょう。

災害時に女性が抱える困難

阪神・淡路大震災や新潟県中越地震、東日本大震災などの過去の大災害において、女性たちは、必要な物資の不足や女性への配慮の欠けた避難所運営、性別役割分担によるケア役割負担の増大、性暴力被害の発生など、人権に関わる深刻な問題に直面してきました。なぜこのような問題が起きるのでしょうか。

長い間、防災や災害復興の分野は男性の領域と考えられ、女性が取組の主体として認識されてきませんでした。防災会議や防災計画の策定など、意思決定の場にいるのは男性がほとんど。そのため、女性の視点が欠如し、女性固有のニーズや意見が反映されないまま、防災や災害・復興支援への取組が進められてきました。その結果、災害が発生する度に、被災した女性たちは、さまざまな困難を抱えることになりました。

しかし、これらの問題はなかなか表面化せず、改善に結びつ

きませんでした。日頃から、女性は家事・子育て・介護など、家族のケア役割を担うことが多く、周りを優先し、自分のことを後回しにしがちです。特に災害時は、誰もが過酷な状況に置かれる中、「皆が大変なのに、これぐらいは我慢しないと」と、改善への要望も言い出せずにいました。

ほとんどの避難所は男性がリーダーで、女性からの要望を出しにくかったり、出したとしても「わがまま」と言われることもあり。避難所に居づらくなることを危惧して、声をあげることをあきらめたり、問題への対応がなされないまま、劣悪な環境での暮らしを余儀なくされたのです。

その状況を改善への取組へとつなげたのは、被災女性たち自身からの声や、普段から女性に寄り添い支援活動を行ってきた女性たちからの情報発信でした。日々の活動を通して災害時の課題に気づいた女性たちの力により、女性たちの困難が明らかになっていったのです。



進めよう 女性の地域参画

このような過去の災害での実態を受けて、国の災害対策にも徐々に男女共同参画の視点が導入されるようになりました。第4次男女共同参画基本計画では「男女共同参画の視点上に立った防災・復興体制の確立」として独立して位置づけられ、防災・災害復興のあらゆる段階で男女共同参画の視点からの取組が重要であることが確認されました。

過去の防災・災害復興の過程において、女性の視点が欠けていたことによる様々な問題を次の災害で繰り返さないために、どのような備えや取組が必要でしょうか。

まず、防災・災害復興のあらゆる場面において、意思決定や政策決定の場への女性の参画が不可欠です。また、避難所のリーダーに女性が参画することも欠かせません。女性が何に困り、何を必要としているのか。女性たちが要望を出しやすい環境を整え、ニーズを汲み取り、早急に改善へつなげていくこと。それには、女性リーダーの存在が大きな意義を持ちます。

ただ、そのような体制は、災害発生時の混乱の中で、突然できるものではありません。日頃から、地域の防災の取組に女性が主体的に参画し、声をあげる土壌ができていなければ、いざ災害が発生した時に、その力を発揮することは難しくなります。日常的にどれだけ女性たちが地域に参画しているかによって、災害時の対応は大きく変わることを私たちは認識しておかなければなりません。

実際に、東日本大震災や熊本地震でも女性リーダーがいる避難所は、女性専用スペースや更衣室・授乳室の設置など、配慮のある環境がすぐに整えられたり、日常から男女共同参画の取組に力を入れている地域では、避難所で女性たちのニーズが活かされやすかったという事例が報告されています。

災害に強いまちづくりへ 多様な視点を

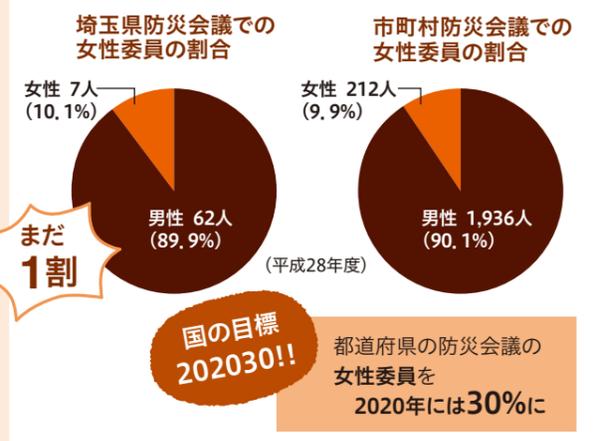
過去の災害において明らかになった多くの課題。それは女性だけの問題にとどまりません。年齢、性別、職業、家族構成などによって、その生活は異なり、災害時に抱える不安や困難、必要な物や支援も一様ではありません。ケア役割を担うことが多い女性は、ケアされる側のニーズと日々接しています。そのような女性の視点は、生活者の視点であり、災害時、より弱い立場におかれる人々の視点も反映していると言えます。防災に女性の声も反映されていないことは、この多様なニーズも見落とされていると言えます。

ケア役割を担うのが女性に偏っている、そのこと自体も社会的課題です。その課題を解決していくためにも、女性が地域の防災組織などの場に参画し、男性と対等な存在として社会の意識や行動を変えていくことが、さらに多様な人々が参画しやすい地域づくりにつながります。

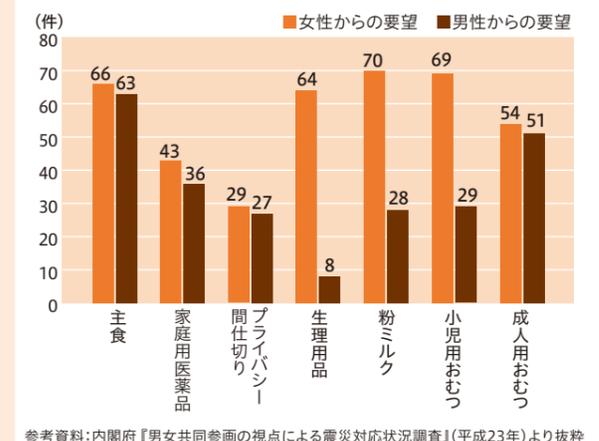
一人ひとり違う生活の在り様を尊重しながら、同時に、多様な視点やニーズが反映される仕組みや、困難を抱える人が声を出しやすい土壌をつくるよう努力する。そのような地域のあり方が、そこに暮らす人々の関係性を育み、災害時でも多様な人への配慮がある、人権を守る具体的な取組につながるのではないのでしょうか。

災害時には、平時の社会的課題がより顕著に現れます。日常的に、地域のなかで声を上げにくい立場にあるセクシュアル・マイノリティの人たちや、単身・一人暮らしの女性、若年女性なども、特に避難所のような集団生活のなかでは大きな困難に直面しがちです。防災への取組をきっかけに、日々の暮らしや意識を見つめ直し、多様な人々が参画できる、災害に強いまちづくりを進めましょう。

DATA① 防災・災害復興分野等への参画状況(埼玉県)



DATA② 支援物資に対する男女別の要望の違い





◆さいがい・つながりカフェ◆

With You さいたまでは、東日本大震災の後、埼玉県内で暮らす被災者の方のつどいの場「さいがい・つながりカフェ」を月2回開催しています。その取組と今後について、開催時から運営に関わる実行委員長の薄井篤子さんにお聞きしました。

現在のさいがい・つながりカフェは？

東日本大震災から6年が経ち、参加者の状況は変化していますが、目指していることは「避難してきた皆さんが気軽に集まることができる場所づくり」と、当初から変わっていません。今でも、初めて参加という方もいらして、回復のペースは人それぞれ違うということを感じます。ひとりでも参加する方がいる限りは、活動を続けていきたいですね。

今後の活動へ向けて一言

この活動が、防災の取組につなげられていないという思いがあります。避難生活を経験されてきた皆さんのおしゃべりには、次に生かせるヒントがたくさん詰まっています。時間の経過とともに問題は風化し、このままでは同じ問題をまた繰り返してしまうという危機感があります。まだ模索段階ですが、これまでの経験を見える形にして、取組を一步前へ進めたいと思っています。



◆とちぎ男女共同参画センター(パーティ)の取組◆

栃木県内でも複数の川が氾濫した、関東・東北豪雨被害(2015年9月)では、東日本大震災の避難所支援をきっかけに作成した防災ハンドブックが活用されました。



「男女共同参画の視点で取り組む 防災ハンドブック」
<http://www.parti.jp/etc/bousai.html>
出張セミナーや防災訓練などで活用

◆防災への取組の成果

「防災ハンドブック」「避難所チェックシート(間仕切り・更衣室・授乳室などをチェック)」「聞き取りシート(おむつ、ミルク、下着などの要望をききとる)」を活用しながら、地域の女性リーダーと避難所を回ったことで、仕切りの導入や物資の調達など、避難者に寄り添った支援へつながりました。

◆見えてきた課題

- 避難所は設営してしまった後では、女性専用スペースの設置などの配置換えが難しいという声がありました。設営初動時に設置するよう、避難所マニュアル等に事前に明記する必要性を感じました。
- 避難所リーダーや職員に、「男女共同参画の視点」での支援について、まだまだ浸透していません。避難所運営に関わる行政職員や支援者を対象に、男女共同参画視点の防災研修が必要だと感じました。

(2016年9月開催「With You さいたま女性防災フォーラム」事例報告より抜粋)

With You さいたま からのお知らせ

from 情報ライブラリー

防災と女性について考える 本

災害支援手帖

荻上チキ 著(木楽舎 2016年)



はじめよう!「支援訓練」。「避難訓練」ではなく、誰かを助けるための「支援」の準備を進め、「支援」の練習をしよう。体験した成功や失敗には「必要な支援」への大事なヒントが詰まっている。

女たちが動く 東日本大震災と男女共同参画視点の支援

みやぎの女性支援を記録する会 編著(生活思想社 2012年)



被災女性による被災女性のための支援記録である。その支援は、地域の男女共同参画の取組みの一環として、市民協働で取り組まれたものでもあった。本書を通して、今後に続く貴重な体験が語られる。

※上記の本は、With You さいたま情報ライブラリーにて、貸出しをしています。

相談室より

災害時は、性暴力も発生しやすくなります。

災害時は停電の暗闇やがれきの山など、人の目の届きにくい死角が増え、性暴力の警戒がしにくくなります。男女別でない屋外トイレや、多くの人が寝泊まりをする仕切りのない避難所も被害の温床となります。そのような中で、周囲は救命に精一杯で、弱者を気遣う余裕を失うため、性暴力被害者は被害を訴えにくくなります。被害を受けた場合も相談でき、対策をとることができる環境が必要となります。

日常から、災害時だからこそ決して性暴力被害をださないと考え、防止策を想定しておくことが重要です。

相談窓口

◆With You さいたま相談室(対象:性別問わず)

TEL 048-600-3800

受付時間 10:00~20:30(月~土)

年末年始・祝日・第3木曜日を除く

◆アイリスホットライン(性暴力等犯罪被害用相談電話)

TEL 048-839-8341

受付時間 8:30~17:00(月~金)

年末年始・祝日を除く



フォトジャーナリスト 安田菜津紀さんからのメッセージ

伝えることをあきらめない

2月3日(金)～5日(日)、With You さいたまフェスティバルが開催されました。多くの方に御来場をいただきありがとうございました。県内51団体が集結し、ワークショップや展示、舞台発表が行われました。

講演会では、フォトジャーナリストの安田菜津紀さんを講師にお迎えし、被災地や紛争地帯に生きる人々に寄せる想いや、声を上げるのできない人々からのメッセージを伝えていただきました。その一部を御紹介します。



安田 菜津紀(やすだ なつき)

1987年神奈川県生まれ。studio AFTERMODE所属。カンボジアを中心に、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で貧困や災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に、被災地を記録し続けている。2012年、「HIVと共に生まれるーウガンダのエイズ孤児たちー」で第8回名取洋之助写真賞受賞。上智大学卒。

フォトジャーナリストとしての原点

私が初めてカンボジアに足を踏み入れたのは、高校2年生の時。「国境なき子どもたち」の友情のレポーターとしてでした。そこで、トラフィックチルドレン(人身売買の被害に遭った子どもたち)の問題を知りました。紛争や貧困といった社会のゆがみが真っ先に向かっていってしまうのが、女性や子どもたち。彼らのような思いをする子どもたちが減っていくためにはどうしたらいいのだろう、と考えたのがフォトジャーナリストへの出発点でした。

ポルポト政権下では、飢えや虐殺で4人に1人が命を落としたりとされています。内戦が終結し20年以上経つ今でも、まだ埋まっている400万個の地雷をすべて取り除くには100年以上かかるそうです。傷ついたり子どもたちや、地雷で両足を失ったおじさんとの出会いは、紙の上で平和が訪れていても、本来争いとは関係ない人が傷つき続けなければいけない現状を教えてくださいました。そして、それが「争いに手を付けてはいけない」こと一番大きな理由だと教えられました。

私の役割は伝え続けること

義父母の東日本大震災による被災を機に、もう一つのフィールドとなった陸前高田市。初めは、何も無くなった町を前に、写真家として何をしてよいかわかりませんでした。そうした中で、被災しながらも日々成長していく子どもたちと出会いました。「じっちゃんの手で取ってきた魚、もう一度食べたい」という孫の声に、見るのも嫌になっていた船に乗る勇気をもらった漁師のじっちゃんとも出会いました。様々な人との出会いが、「写真家ができることはほんの一握り。でも、それぞれができることをちょっとずつ持ち寄り寄っていけば、何か乗り越えることができるかもしれない」と気づかせてくれました。

そして、もう一つのフィールド、シリア。シリアは、内戦前はとても美しい国でした。今は戦渦の中、多くの傷ついたり子どもたちがいます。写真を撮る時にはいつも、目の前の傷ついたり子が少しでも回復するように、そして同じような思いをする子たちが現れませんかのように願っています。

写真という手段は、直接的には目の前の子の命は救えないけれど、私の役割は、「何が起きているか世界に発信すること」。被災地や紛争地帯に生きる人々の想いを写真を通して伝え続けていきたいと思っています。

With You さいたま からのお知らせ

働き方・生き方

しごと準備講座 ～体験から学ぶこれからの「わたし」の働き方～

働きづらさ・生きづらさに悩む女性を対象に、これからの働き方を学ぶ講座を開催しています。

週1ペースでゆっくり学べます。決まった時間に通うことで、生活のリズムを整えやすくなります。自分の「こだわり」に気付いたり、引っかかっていることを周りの人に話すことで気持ちも変化していきます。

◆こんな方におすすめ◆

- 人づきあいが苦手で仕事に自信が持てない
- ブランクが長く、仕事に就くのが不安
- 過去の経験から仕事に就くのが怖い
- ゆっくりと自分のペースで働きたい

①導入

②からだほぐし

③パソコン体験
(3回)

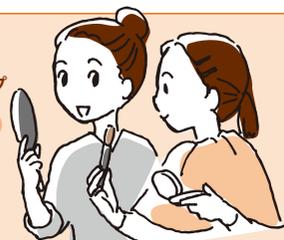
④就職応援フェア
(メイクレッスン、
履歴書用写真撮影、
スーツ等プレゼント)

⑤おしごと体験
(3回)

⑥振り返り

⑦女性キャリア
センターの
面談相談体験

⑧フォローアップ



※平成28年度の内容です。詳しくはホームページをご覧ください。

Award 第12回 さいたま輝き荻野吟子賞受賞者決定!

埼玉県では、本県出身で日本最初の公認女性医師・荻野吟子にちなみ、男女共同参画社会の推進に顕著な功績のあった個人や団体、事業所を表彰しています。第12回受賞者は以下の方々です。

きらきら輝き部門

★**岸田 則子**(きした のりこ)さん
前日本ラグビー協会女子委員長
(川越市で活動)
女子ラグビーの普及・発展に尽力

さわやかチャレンジ部門

★**高橋 理子**(たかはし ひろこ)さん
アーティスト
(朝霞市出身)
着物を軸にした幅広い表現活動で
海外でも評価

★**廣瀬 史子**(ひろせ ちかこ)さん
JAXA宇宙航空研究開発機構
主任研究開発員(白岡市出身)
金星探査機「あかつき」軌道設計担当者

後列左から、
AGS株式会社代表取締役社長石井進さん、
上田知事、リコーインダストリー株式会社
埼玉事業所所長小林定吉さん
前列左から、岸田則子さん、廣瀬史子さん

いきいき職場部門

★**AGS株式会社**
(さいたま市)
情報サービス業
子育て・介護と仕事の両立
在宅勤務制度の活用実績

★**リコーインダストリー株式会社**
埼玉事業所(八潮市)
事務機器等製造業
育児・介護の支援制度
男性の育児休業取得7割超



男女共同参画週間イベント



三浦 まり

慶應義塾大学法学部政治学科卒。
カリフォルニア大学バークレー校
でPh.D(政治学)を取得。東京大
学社会科学研究所研究機関研究
員、カリフォルニア大学バーク
レー校国際経済研究所客員研究
員などを経て、2010年より現職。

6月24日(土) 13:30~16:00
会場:With You さいたまセミナー室

もっと もっと

私たちの声を社会へ ~世界の潮流と日本の課題~

◆講演&ファシリテータ

三浦 まりさん(上智大学法学部教授)

申込受付開始 5/10(水)

クオータ制をはじめとする女性の社会参画を進める
制度や政策についての講演の他、また、参加者同
士が話し合うグループワークの時間を設けます。

With You イベントカレンダー 3月

3/15 水 グループ相談会 おはなしカフェ
働きづらさに悩む女性対象
14:00~16:00

3/19 日 グループ相談会 おはなしカフェ
シングルマザー対象
14:00~16:00

3/25 土 さいがい・つながりカフェ
企画イベント
あれから6年。そして、これから
この6年の間に見えてきたこと、考えてきたこと
13:30~16:00

通年 さいがい・つながりカフェ
県内に避難されている方の交流会
毎月2回 第2・4木曜日
11:00~15:00(詳しくはHPで)

※イベントカレンダーの日時や内容は変更することがありますので、ご了承ください。

◆講座のお申し込み方法

市町村、男女共同参画関連施設、図書館、公的施設などに開催日の約1カ月前からチラシが配布される他、With You さいたまホームページにも掲載します。お電話やメールでのお問い合わせも受け付けています。

◆保育サービスを実施しています

With You さいたまでは、講座・講演会に参加される方を対象に保育サービスを実施しています。
▶6カ月以上の未就学児対象
▶先着20名 ▶実費300円
講座お申し込み時に、お名前と年齢をお申し出ください。

With You さいたま 埼玉県男女共同参画推進センター

〒330-0081 さいたま市中央区新都心2-2
TEL **048-601-3111**
FAX **048-600-3802**
URL <http://www.pref.saitama.lg.jp/withyou/>

■開館時間

月曜~土曜/9:30~21:00
日曜・祝日/9:30~17:30
休館日/年末年始・第3木曜日

■貸出施設のご利用時間

午前/9:30~12:00
午後/13:00~17:00
夜間/18:00~21:00

※利用時間には、準備及び後片づけの時間も含まれます。



▲携帯サイトでも
利用案内を発信し
ています

With You さいたま相談室

■電話相談 TEL **048-600-3800**
■受付時間 月曜~土曜/10:00~20:30
(年末年始、祝日、第3木曜日を除く)

埼玉県女性キャリアセンター

電話&面談相談 ハローワーク求人情報の提供

■電話相談 TEL **048-601-1023**
■受付時間 月曜~金曜/10:00~16:30
(休憩時間/11:30~12:30)
■面談相談予約 TEL **048-601-5810**
■予約受付時間 月曜~土曜/9:30~17:30
(年末年始、祝日、第3木曜日を除く)
■ハローワーク求人情報の検索
月曜~土曜/9:30~17:30
■ハローワーク求人情報の紹介
月曜~土曜/10:00~17:00



彩の国 Sai-no-kuni
埼玉県

埼玉県のマスコット(コ)ン「さいたまっぴー」